

こけら経 — 仁田館遺跡出土 —

867 枚におよぶ多量出土は県内では例がなく、保存状態は極めて良好であり、当時の信仰の様子を知る上で、全国的にみても貴重な資料です。

静岡県内では、発掘調査によってこれまでに数え切れないほどの多くの遺物が出土しています。これらはいずれも、私たちの先人達が残してくれた重要な文化財です。

このコーナーでは、その中でも特に貴重な出土品を紹介していきたいと思えます。

仁田館遺跡

函南町仁田館遺跡は、源頼朝の旗揚げに尽力した仁田四郎忠常の館跡と推定される遺跡で、来光川河川改修に伴う発掘調査では周囲に堀を巡らせた中世末から近世の館跡が調査され、こけら経 (867 枚) 他多くの貴重な遺構・遺物が発見されました。(伊豆箱根鉄道「伊豆仁田駅」下車北東へ徒歩約 5 分 [約 400 m])

写経当時の息遣いが聞こえる

こけら経は、館の北東隅を流れる河川跡から発見され、保存状態が極めて良好で、写経の筆遣いも観察できます。法華経が写経されていますが、ひとつ先の字を書きかけたもの (①)、余分な字を消したもの (②)、脱字を字間に書きこんだもの (③)、何らかの理由で板が不足し、1 枚の板に無理やり 2 行写経したもの (④) があることから、写経の正確性はある程度求められていたものの、完璧な写経を行うというよりはむしろ、写経する行為自体に重点が置かれていたものと推測されます。共伴資料、板の形状、板の片面に写経する形態から 15 世紀中葉から 16 世紀頃のものとして推測されます。(平成 17 年 11 月 21 日 県指定文化財指定)

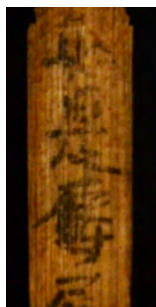


【こけら経】

薄い木の板(柿=こけら)に写経することにより故人の追善供養や本人の後生安楽などを祈るもの。寺院に奉納されたり川に流されたりした。



①「念」の左上に「是」の二画目を書きかけている。



②余分な字「辱」を上から消している。



③「法」と「現」の間に脱字「不」を書き加えている。



④何らかの事情で板が不足し一枚の板に二行写経している。



写経の様子

稚児観音縁起絵巻※に描かれたこけら経写経の様子をジオラマ復原したものです。数枚のこけら板を手に僧侶が写経する姿がうかがえます。仁田館遺跡のこけら経と仁田氏の関わり、写経の目的は不明ですが、館北東隅の河川跡から出土したことは水に流す供養をうかがわせます。

※稚児観音縁起絵巻 奈良県の興福寺別院、菩提院の稚児観音像の縁起を描いたもの。成立は推定 14 世紀